

ノールランド インステテユート

在ロンドン 宇佐美 ケイ

ノールランド インステテユートはナースのトゥレイングスクールであつて其處に生徒の實習を兼ねてナーセリが附屬してある。家庭に或は病院にナースとして働く人々を養成する最も勝れた學校として紹介されたものである。現在百四十人の生徒がある。(一九二九年現在)一年を四期に分け各期に入學を許し、四期の修業を終へて更に一年間ロンドン市内に勤め、其成績によつて初めて證明書を受領する事が出来る。これは私費生の場合で、給費生は勞働に服しながら(養成所内の)此處に學び、二年で修學を終へる。生徒は高等女學校卒業、或は小學校卒業のものである。ナースの給料は最初の一年が五十ギニー(邦貨五百二十五圓)次年は六十ギニー位である。

ナーセリには現在二十五人位の幼児を預つてゐる。生後一ヶ月から七歳まで、母の亡い子、或は両親が外國へいつてゐる子、中には旅行者にして両親は仕事の爲めにホテルに住み、子供を此處に預る者もある。預り料は一週間邦貨約三十五圓。

ナーセリは二階、三階、四階まである、各ナーセリは實に清潔である。大抵一室に二人或は三人

の子供が居り、可愛い、ベットが置いてある。床は敷物がない、これはナーセリーの本體である、出来るだけ空氣を汚さぬ爲めに。一人のナースが一緒にやすむ事になつてゐる。各室にミルク、パタのやうなものと貯藏する開き戸棚があつて、常に外氣の通ずるやうな構造になつてゐる。各室に暖爐があつて、それには嚴重な圍が出来てゐる。道路に面して部屋には皆バルコニーが附いてゐる。餘り澤山の玩具もないが棚があつて其處に並べてある。各室の隅に衝立て圍つた所に低い洗面臺が一つ、タオルその他化粧道具が清潔に整然と並べてある。他にナースの大きい洗面臺がある。

可なり廣い晝間保育室デーナーセリーが一つだけあつて、他は前に述べたやうに十分の廣さで兩方を兼ねてゐる。此日も二三人の子供がデーナーセリーで遊んでゐただけで、他は皆受持のナースと附近の公園に遊びにいつてゐる。實際に子供の世話をするナースは四期生で皆制服を着てゐる。英國の此種の學校の生徒は皆各様の制服を着てゐるので、公園などで澤山子供をつれて遊びに来てゐるナースの服裝を見て、あれはどこの養成所の生徒であるかすぐわかる。皆若い元氣のいい、健康美の持主である。如何にも愉快そうに働いてゐる。

ナーセリーの掃除、石炭運びなどは女中がする、子供のベットの世話、衣服の洗濯、修繕、食事の調理一切ナースがする。食事は各ナーセリーでするのが本體時々一緒に食堂でする事もある。

養成所の方を見る。裁縫、編物の教室には可愛い、子供の着物のこしらへかけが澤山ある。

お料理の稽古場ではお菓子をこしらへてゐた。一人はお肴の料理をしてゐる、凡て子供、病人の食物に就て學ぶ。理論よりも實際に重きを置いてゐると案内の先生が話された。

生徒は全部學校内に寄宿してゐる、其寢室を見せて貰ふ。廣い部屋を白いスクリーンで仕切をし澤山ベットがならべてある。清潔に併も女らしい裝飾の施してあるスクリーンで圍まれた小さい一つのベッドルームをゆかしく見たことである。

英國のナースの長所

英國のナースは人物に於て技倆に於てまた識見の高い點に於て世界的に有名であるが、これは英國の家庭に於ける子女の教育の勝れてゐる事を關連して自然其成績が揚るのであると思ふ。家庭教育に就ては後に其見聞した所を紹介したいと思ふが、今此處に少しく英國のナースについて述べる事とする。

英國のナースは母の手から全然子供を取つて仕舞ふから好まぬと在倫敦の或日本のお母様は言はれた。

英國のナースは子供に就て全責任を持つ實に忠實なので預けて安心である、といつて現在ベルリンまで英國のナースを連れていつて居らるゝ日本のお母様がある。

英國のナースは最初の約束次第で子供の扱ひの上によく母親の意見を容れ、然も責任感が強いので安心して子供を託すことが出來て非常に仕合せである、と或日本のお母様はいふ。

種々の事情を異にする日本の家庭にすぐそのまゝ英國のナースが適合しない事は止むを得ない事と思

ふが前の三つの見方は皆ほんとうである、英國のナースの特徴は正に責任感の強い點にある。また強い自信力を持つてゐる。それは自分の學識、經驗、技倆から自然に生じて來ると思はれるがとにかく眞に信頼するに足りると共に一面頑固で人の意見を容れぬといふ缺點が伴ふわけである。

英國のナースは一週に一回、或は二週に一回休日を要求する。これが勿論ナースの休養として必要であると同時に子供の爲めにもナースに此變化を持たせる事が必要である、と或英國婦人がいはれたが、ほんとうだと思ふ。而してその休養の日はナースに代つて母親がすつかり子供を見なければならぬ。他の女中にまかせるといふことはナースが承知しないのである。故に其日は母親は臨時の用事以外には外出その他子供の世話を缺くやうな他の用事をしない。つまりその日は、ち風呂から食事から夜ベッドに入れるまでは母親の自由が無いわけである。二人ナースが居つて交代にするほどの家庭は別である。この事が一面母親にとつてまた子供にとつても大切な點であらうと思ふ。

英國の社會的に相當の位置にあり、教育ある婦人であつたならば社交上また、種々社會的の仕事に提はつてゐる點から、家政の事以外に外出も多くまた來客、或は讀書に事務に、中々多忙なので、眞に子供をまかせる事の出来る主婦の助手が是非必要になつて來るわけである。ことに抵抗力の弱い、すぐ傳染病にもかゝり易い幼兒期に於て、育兒また看護に十分な智識と經驗のある者を要求するのは當然の事でナースの養成が盛になり、需要の條件と供給機關の發達と相まつて善良なるナースを得らるゝやうに

なつて來てゐるのであると思ふ。

此點に於て日本の家庭で、所謂女中に子供を預け併も其の大部分は教育の程度低く、ことに育児、衛生等に關して何等の智識も經驗もないものに終日託して外出する事もあり、やゝこれ等の點に考慮を拂はれる家庭としては看護婦を雇はれる、何れも決して適當とは思はれない。ことに婦人が種々の事情から外で働く事が多くなり、一面、時と金とに餘裕のある人が社會の爲めに働かねばならなくなつて來てゐる今日、母親が安心して子供の養育をまかせ得るナースが實に必要である事と思ふ。

實際に英國のナースを使はれたお話、英國のナース氣質かたぎともいふべき特色を見られる實例を記載する。松平駐英大使が十數年前英國大使館にお勤めの頃。同家の御長男について居つたナースの話である。御長男が四五歳であらるゝ時にどうも血色は悪るし、一向肥られぬのみか元氣がなく、だん／＼やせてゆかれる御両親も心配され、無論醫者にも診せられたが、別段異状はないといふ時に、ナースが「かういふ體質のお子様には牛肉の生なまをしほつてその血を飲ませるとよい」といひ出したそうである。父君は「そんな、生の肉を搾るなど實に危険な話だ、蠅がたかつたかも知れず、またどんな微菌がついて居らぬとも限らぬ、よせ」といはれた時、ナースが「あなた方は、子供を育てた經驗がなくて何もあわかりの筈がない、自分は其方法で幾人かを丈夫にして經驗があるのだから、經驗のない者はあるものに從ふのが當然だ」と主張する、夫人が間にはいられて、あれほどにいふのであるからナースの言ふ通

りにさせて見てはといふ事になり早速その食餌療法を初められた所、實に驚いた事に、めき／＼と顔色がよくなり元氣は出る、體重は増すといふ風にナースのいふ通りの成績をあげたといふお話であつた。

も一つ同夫人からうかゞつた同じナースに就てのお話。

或夜の事である、御長男がすでにベットにおはりになる時刻になつたので、いつもの通りナースが御両親の所に「お休み遊ばせ」と申上げにつれて來た。所がどうした事か其晩はご挨拶をしない、「さゝお休みなさいとおつしやい」とナースが傍からいつても「いや」といつてもどうしてもきかれない。幾度か同じことをくりかへしすゝめてもきかれない、ナースは「よいお子さんです、さあおやすみ遊ばせとおつしやい」と種々すかしても一寸こじれて仕舞つて何としてもたゞ「いや」とのみ答へられる。其中父君は新聞を読み始められる、夫人はどうなるかと思つてぢつと辛抱して居られると、とう／＼大急ぎに「お休み遊ばせ」といつてかけ出された。その時ナースは「あゝよい子／＼」と抱かればかりにしてベッドルームにつれていつた。其間丁度四十分かゝつたといふお話である。

一つは育児の上の確信を斷行せずには止めぬ強さ、一つは躰けの上に徹底しぬ強さ、この強さが無ければ子供の眞の教育は出来ぬ。勿論この事あつて以來再び夜の就寝時間に我儘をいはれる事はなかつたといふ。それは當然の事であると思ふ。これ等の點がナースのみに限らず、英國の年長者が、その子女に對しての躰の上に徹底してゐる事實であつて、此點我々の大に學ばねばならぬ事を思つた次第である。